

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【石井北小学校】

<第5学年：夢に向かって>

様々な職業の中から児童が興味をもった五つに絞り、外部講師を招き話を聞いた。働くことへの興味・関心を高めたり、課題意識をもったりすることを通して、自分の夢や将来について考えることをねらいとして授業に取り組んだ。

その中で、漁業協同組合の職員や漁師を招いた活動では、近年の漁場や仕事内容の変化などに関する現状を聞いた。また、漁に使う網に入ったり、ひもの結び方などを体験したりした。この活動から、児童は漁業について関心を深め、漁獲量や漁場の変化、担い手について更に学習を進める意欲が高まった。

他にも銀行員や看護師、空港のグランドスタッフに来ていただいた。仕事の内容や魅力、やりがいについて詳しく話を聞くことができ、職業に対するイメージを膨らませた。どの職業においても、仲間との協力やコミュニケーション能力が必要であることを理解することができた。児童が、希望をもって自立的に自分の未来を切り拓いていこうとする思いを強める有意義な学習となった。



<第4学年：共に生きる>

障がいのある人々やボランティアとして支えている人々と触れ合う体験活動を通して、その人たちの思いや願いを理解し、「共に生きる」とはどういうことか考え、自分にできることを実践していこうとすることをねらいとして、授業に取り組んだ。

その一つとして、「認知症キッズサポーター養成講座」では、認知症の症状や認知症の人への接し方を学んだ後、認知症役の方への声掛け体験を行った。困っている認知症の方のように声を掛けるとよいか、グループで考えながら活動した。石井西地区社会福祉協議会、地域包括支援センター、民生児童委員の方、そして地域の方など、多くの方の御協力の下、実施することができた。

緊張しながらも、困っている人の力になろうとしている児童の姿が見られた。このような体験を通して、高齢者や障がいがある方の身体の不自由さや気持ちを理解し、サポートの大切さを学ぶことができた。

